

支店長の わがまち紹介 第57回



牛久シャトー

牛久市

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県牛久市です。牛久支店長が牛久市長 根本洋治氏にお話を伺いました。

牛久市は「筑波経済月報」第10号（2014年5月）第10回本コーナーにて紹介させていただきました。改めまして、本市の魅力や特徴についてお聞かせください。

■3つの特徴を持ったまち

本市の人口は昨年12月末で85,255人になりました。ひたち野うしく地区に子どもたちが増えたことに伴い、若干ではありますが自然増の傾向になってきており、とても嬉しく感じています。

しかし、その反面で、牛久駅を中心とした旧市街地ではかつての活気を失いつつあります。また、農村地域の奥野地区では、高齢化や若者の「農業離れ」により耕作放棄地や空家の増加が続いています。

本市はこのように3つの特徴を持った地域に分かれつつあり、人口も経済規模も違うため、同じまちでありながら、各地域に見合った様々な政策を進めていく必要があります。

■英語教育に力を入れたまちづくり

現在、多くの市町村では児童生徒数の減少による小中学校の統廃合が進んでいます。しかし、本市は、小規模でも魅力的な学校づくりを進めることで存続を図りたいと考え、人口が減少している奥野地区の奥野小学校、牛久第二中学校を9年間の一貫教育として整備しました。



ブリティッシュヒルズでの様子

大きな特徴は、小学校からALT（英語指導講師）による毎日15分のイングリッシュタイムを導入し、中学校では、生徒全員が福島県

白河市にある“パスポートのいらない英国”と言われる「ブリティッシュヒルズ」を年に1回訪れ、英語漬けの1泊2日を体験するなど、特に英語に力を入れた教育を行っていることです。



牛久市長
根本 洋治氏



牛久市 教育部長
川井 聡氏



牛久市 建設部長
八島 敏氏



牛久市 経営企画部長
飯泉 栄次氏



牛久市 経営企画部 次長
吉田 将巳氏



牛久支店長
益子 邦広

また、姉妹都市であるオーストラリアのニューサウスウェールズ州オレンジ市からも中学・高校生をホームステイで受け入れ、1週間ほど交流する取り組みなども行っています。

さらに、平成28年度から小規模特認校制度がスタートしたことで、市民は希望すれば市内のどこからでも、奥野小学校と牛久第二中学校へ通えるようになり、平成29年4月からは西部地域と奥野地区を結ぶスクールバスの運行も開始しました。



オレンジ市の生徒も参加した奥野地区市民体育祭

■「おくのキャンパス」で地域活性化

奥野地区は緑豊かな環境が広がり、子どもたちだけでなく、地域住民が学校に集まって運動会などの地域イベントを一緒に行うなど、昔から子どもたちと地域が密接に交流し合う関係が根付き、訪れた人をやさしく迎え入れる土壌があります。

このように、奥野地区が持つ特徴のある教育環境と融和的な雰囲気により、市内の他地区では「奥野地区が面白い」という意見を持つ方々が増えており、学区外から小中学校合わせて30名ほどが転入しています。

将来的には小学校に隣接する奥野さくらふれあい保育園も加えて「おくのキャンパス」として保育園から中学校までの一貫教育により教育の質の向上を図り、恵まれた「自然環境」と「地域人材」

を活かして子どもたちのグローバルな人間形成を目指していきたいと考えています。

さらに、今後は、本市の全ての小中学校において「おくのキャンパス」のようなコミュニティースクール化を進めていく考えです。

■定住促進を目指したまちづくり

まちの魅力度を向上させ、本市に定住したいと思っていただくには、子どもたちの教育環境を向上させることが一番であると思います。

ひたち野うしく地区には、ひたち野うしく小学校があり、また、今年中に幼稚園も建設予定で、平成32年4月にはひたち野うしく中学校を開設する予定です。完成すれば、敷地内に幼稚園、小学校、中学校が整備されることになります。さらに、比較的近くには茨城県立牛久栄進高等学校があり、文教的にも非常に注目される場所となっています。

現在、本市は新たな宅地の供給方法について県や国に相談しています。ひたち野うしく地区の居住地域は既に飽和状態であり、不動産業者からも「土地が足りない」「周辺地区を開発できないか」などの声が挙がっています。どのくらい住宅用地を供給できるかという点が、今後のまちづくりの方向性を決める大きな鍵になると思います。



ひたち野うしく小学校

■既存企業を大切にする取り組み

新しく企業を誘致し、地域経済を活性化することは大切です。しかし、現在の国内の製造業は、これ以上の設備投資はなかなか厳しく、安価な労働力を求めて海外へ進出する企業が多いと思います。本市で事業を営む貴重な企業に今後も市内に残って頂くためにはどうしたらいいかを考えた時、新規企業だけでなく既存企業に対しても奨励金などで補助するなどの政策が必要であると思います。

そこで本市は、既存企業が増改築を行った場合、次年度より3年間、固定資産税および都市計画税相当額を奨励金として補助しています。この奨励金の制度は、工業団地に立地する企業だけでなく、本市内の企業であれば、全て同じ条件で補助することとしています。

今後の展望に向けてお聞かせください。

■牛久沼畔の道の駅整備への協力で来訪者増加へ

本市は多くの観光資源を有しており、牛久沼もその1つです。牛久沼は実際には龍ヶ崎市域になりますが、龍ヶ崎市では、その近くに道の駅の整備を進めています。両市が協力することで牛久沼の活性化に繋がり、龍ヶ崎市や本市にさらに多くの方々が来訪していただければと考えています。



牛久沼から見る黒富士

■牛久シャトーを日本遺産へ

本市は牛久シャトーの日本遺産[※]への登録を目指しています。山梨県甲州市と一緒にワインの情報を共有し、お互いに強みをアピールするシリアル型として、今年2月に申請する準備を行っています。

茨城県内の日本遺産は、「近世日本の教育遺産群 一学ぶ心・礼節の本源―」として足利学校跡（栃木県足利市）、旧閑谷学校（岡山県備前市）、咸宜園跡（大分県日田市）とともにシリアル型として認定された水戸市の旧弘道館のみです。

牛久シャトーが県内2番目の日本遺産として認定されれば、さらなるブランド力の向上、観光客の誘致などの効果が期待できます。

文化庁は、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックに向け、日本全国で100件程度の日本遺産を認定すると示しており、既に54件が認定されています。今年と来年の申請分で残り46件の枠がほぼいっぱいになると考えられるため、本市は、様々な機会を利用して、認定に向けた活動を行っていききたいと思います。



神谷傳兵衛記念館

■筑波銀行に期待すること

本市でも課題になっている空家問題についての支援策を考えなくてはと思っているところです。筑波銀行にはそれに対応できるリフォームローンなどをご協力いただければと思います。

また、本市では空家バンクに力を入れています。現在登録されている4件のうち、最近1件の契約が成立しました。もっと空家を有効活用してまちづくりに活かしていきたいと考えており、今後検討する機会を積極的に作っていきますので、お時間や知恵をお貸しいただきたいです。銀行にとってもビジネスチャンスになるのではないかと思います。

取材日：平成30年1月10日

写真提供：牛久市

※「日本遺産（Japan Heritage）」は地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもので、単一の市町村内でストーリーが完結する「地域型」と複数の市町村にまたがってストーリーが展開する「シリアル型（ネットワーク型）」の2種類があります。